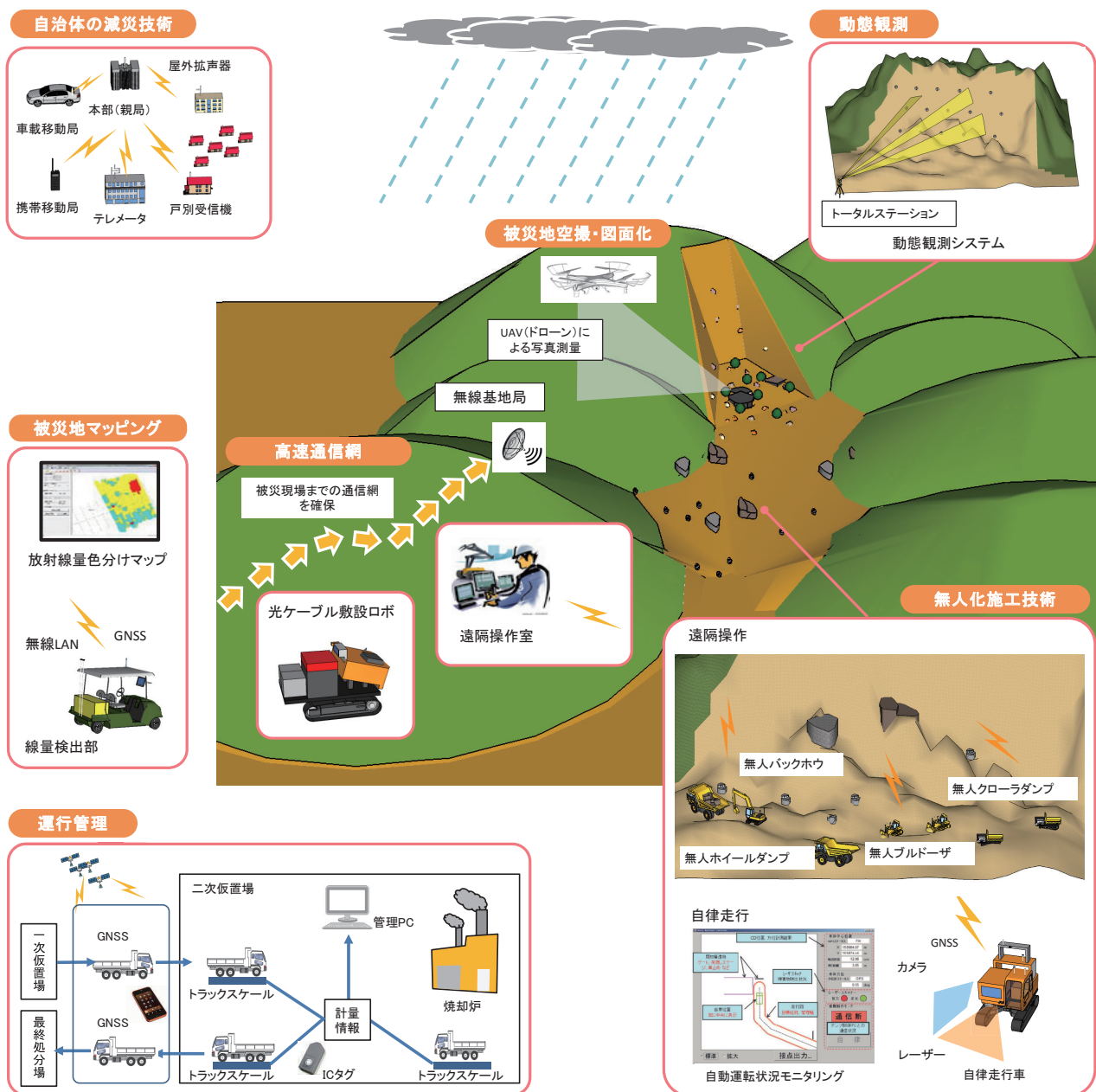


【災害復旧・危険箇所】

災害・危険箇所における ICT 技術は概して災害後の復旧が主体であり、インフラ等の建設とは工事の性質が大きく異なる。災害形態や発生場所は多岐にわたるが、共通課題として人が近づけない環境であることがあげられる。

この課題は 1990 年 11 月に噴火した雲仙普賢岳の復興工事における無人化施工の技術開発により、一つの解決策が見出された。二次災害防止に使われた遠隔操作制御の技術は、今日も無人化施工の基盤技術として活用されている。

また ICT 技術の進歩から GNSS、画像処理、UAV、高速通信技術等を活用した情報処理は、高精度な調査や災害に対する情報共有の高速化を実現している。今後、多くの自治体が取り組みはじめた減災（情報）技術を活用し、災害・危険地でのより高度な情報化施工が望まれる。



災害復旧・危険箇所における ICT の展開例